

# 京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁～4頁 「都の再宣教」第3回 教会史講座(講師 大塚 喜直 司教)

5頁 施設紹介 社会福祉法人 聖母の家

6頁 魅力ある教会って??(北白川教会)

京都教区広報委員会  
編集長 村上透磨  
京都市中京区  
河原町通三条上る  
TEL 075-211-3468  
FAX 075-211-4345  
kouhou@kyoto.catholic.jp

点訳版「京都教区時報」(無料)  
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。  
TEL・FAX 0794-31-8601

2014年 司教年頭書簡 神の「貧しさ」を生きる

## 10. 貧しい教会になる

聖靈に満たされた使徒たちの語る福音に人々はみごとに反応し、すぐに理想的な共同体を作り上げました(使言2・44～45、4・32～35)。

物質的貧しさを分かち合い、貧しい人に奉仕することは、キリスト者の共同体にとっては本質的な姿であり、貧しい人々(優先的選択)は教会の根本的な姿勢であるべきだと教皇フランシスコも指摘されます。教皇は続けます。キリスト者は貧しくなる教会に属していますが、神の国に入るため全ての人に求められている「貧しさ」と、神の国を告げる人に求められる「貧しさ」がありますと。

続けて、神の国を告げ知らせる人が持つべき貧しさを「神の国を述べ伝えるものは、無手無一物で、ただみことばだけを携えていくこと」であると言っています。貧しさに徹すれば徹するほど、「物や権威に頼らず、恵みとしていただく信仰のみで、イエスと交わる喜びを貧しい人と分かち合うことができる」と言い、「世の常識や価値観でこの世の富を優先する行動が、躊躇のものとなるのだと強く戒めています」。

さて、この項目の主題は、「新しい福音宣教をする共同体としての教会に求められる貧しさ」といえますが、そこで強調されるのは、「交わり」ということではないでしょうか。「物質的な貧しさの分かち合いい」、「貧しい人々への献身と奉仕」、「貧しい人々の優先」、「福音宣教する者に求めら

れる「貧しさ」が挙げられています。そこで引用されている聖書の箇所は、使徒言行録にあらわれた初代教会の模範的なキリスト教共同体とされています(2・42～47、4・32～37)。その兄弟的交わりは使徒たちの教え、聖体、祈りに基づいた一つの心と畏敬の心と物の共有と必要に応じた分配により、一人も貧しい人はいませんたという理想的な共同体の姿です。もう一ヵ所は、ルカ10・4にある72人を宣教に遣わすに当たり、宣教者の精神として然るべき態度です(ルカ10・1～12)。彼らのこの徹底した貧しさを生み出すのは、彼らを迎えてくれる人々の好意と親切、全てを計らって下さる神の摂理への信頼があるからです(ルカ12・22～32)。さて、理想は美しく語られます。しかし、それがどれほど難しいものであることかも知っています。教会が少しずつ大きくなるにつれて、この実現は難しくなります。それは初代教会がすぐに当面した問題でした。どんな共同体でも少しずつ大きくなるにつれて「貧しくなる」と言うことは困難になります。教会の発展と貧しさに生きることの難しさは増大します。ではどうしたら良いでしょう。(村上透磨)



カリタスが建てた仮設テント(スーダン)  
カリタス・ジャパンホームページより

11  
2014

## 「都の再宣教」

近代日本における福音宣教の歩み

教会史講座



プロジェクターによる講話

### 第3回 京都のカトリック教会はこうして作られた

ヴィリオン神父と教会設立を巡って  
講師 大塚 喜直 司教

福音宣教企画室では、「都の再宣教」をテーマに、全4回の講演会を企画しました。第1・2回は、9月号で紹介いたしました。第3回は、大塚司教に京都のカトリック教会再生のバイオニアとして活躍した、エム・ヴィリオン師の活動を中心にお話ししていただきました。

## ■ 日本の再宣教とは

ヨーロッパでは18世紀から日本の殉教者の記録が出版され、フランスではとくに禁教下の日本のために再宣教を祈る機運が高まっていた。そのような背景のなかで、250年ほどの禁教を経て1862年、横浜に教会（天主堂）が建立されたことをもつて日本の再宣教の起

点とする。同年、日本26殉教者が教皇ピオ9世によって列聖されたのもこのような事情を踏まえてのことであろう。再宣教によって、明治初期のどのような日本人がキリスト教に入信したのであらうか。時代は版籍奉還や廃藩置県といつた政治的な大変革によって混乱の様相を呈しており、そのなかで旧武士階級は、新政府の官僚の道を歩むことができた薩長土肥の子弟と、士官の道が閉ざされた幕臣、佐幕派の藩士の子弟とに分かれていた。後者は独立で道を切り開くことを余儀なくされ、その

ため西洋文化の知識を他人に先駆けて取りしようとした。一方、民衆はそのような急激な西洋化にはついでいけなかつた。このような時代背景のなかで、キリスト教は生きるべきよすが、規範として捉えられ、人々の心のよりどころとなつたという意味で、16世紀のキリストン時代と似てはいるが、次のように宣教を取り巻く状況は大きく変化していた。



日本26殉教者



明治の神学生

■ ヴィリオン神父たち宣教師のおかれた状況



明治の信徒



ヴィリオン神父

神父のこの長崎居留時代に「浦上四番崩れ」がおこり、ヴィリオン師は先輩宣教師とともに三千人以上の信者たちが流れ

## 長崎時代

エメ・ヴィリオン神父は1843年9月2日、南フランスのローヌ県リヨン郊外のチューネ村で生まれた。司祭叙階後に宣教師となるためにパリ外国宣教会に入会し、1866年マルセイユ港から香港を経て日本へと向かい、1868年長崎に到着した。殉教覚悟であった。



ショファイユの幼きイエズス修道会の来日

さらには孤児の世話を余儀なくされたことがあげられよう。現在でも京都で活躍しているショファイユの幼きイエズス会が来日することになつたのも当

題のなかで働く必要がなかった。知識人は文明開化を追い求め、民間ではキリスト教への反感は相変わらず根強かつた。それに加えて幕末以降に来日したプロテスタント諸派、そしてロシアのハリスト正教会との宣教における競合という、キリスト教とは大きく異なる時代を生きる必要に迫られた。それは京都もまたしかりであり、京都の再宣教のパイオニアとなつたヴィリオン神父も、

な時代を拓いていったのである。

ヴィリオン神父は1843年9月2日、南フランスのローヌ県リヨン郊外のチューネ村で生まれた。司祭叙階後に宣教師となるためにパリ外国宣教会に入会し、1866年マルセイユ港から香港を経て日本へと向かい、1868年長崎に到着した。殉教覚悟であった。

刑されていくのを見送った。これらの流配の信者たちの一部が、その後のヴィリオン師と深い関わりをもつようになるのである。

## 神戸時代

3年間滞在した長崎を離れ、神戸教会の創立者ムクニー師の帰天に伴い神戸へ移動。この地で流配の信徒と接触することになった。和歌山や金沢に流された信者が、司祭が神戸にいることを聞きつけ、秘密裡に訪れてきては信心用具をもらい、秘跡を受けて数日して帰つていった。このうちの一人、ロレンソ西田が金沢の流刑先から脱走してヴィリオン神父のもとに身を寄せ、神父の大いなる協力者として伊勢、津、松坂の布教に尽力した。

さらに神戸時代の特筆事項として、ヴィリオン師が孤児の世話を余儀なくされたことがあげられる。現在でも京都で活躍しているショファイユの幼きイエズス会が来日することになつたのも当

## 京都時代

7年間暮らした神戸を離れ、フランス語教師という名義で入洛。その日、9月29日はザビエルが聖ミカエルを日本の保護聖人に選んでから330年目にあたった。ヴィリオン師は神戸時代からの友人である野村氏のもとへ身を寄せる。当時の京都は東京遷都以降、急速に荒廃し人口も減少していた。当時は信教の自由がすでに得られていたとはいえ、仏教の京都でのキリスト教への人々の偏見は激しく、廢仏毀釈すでに打撃を蒙っていた。仏教界が、キリスト教の布教を喜ぶはずもなかった。ステファンを着ること、あるいは自宅から四方三里以上に外出することも許されず、ヴィリオン師の京都滞在は最初から厳しいスタートであった。

ヴィリオン師が入洛後、早々に着手したことは、1860年にジラール師のもとに届けられ、その後ヴィグルー師によつて埋められた「都の聖母」の場所を探し、掘り出すことであった。



都の聖母

## ヴィリオン師と改宗者たち



ヴィリオン師・要理の講義

ヴィリオン師のもとでキリスト教へ入信した人々のうち、特記すべき人物はまずロレンソ西田、そして河原町教会の最初の洗礼者として記録されている中村亀藏、古林正信である。中村亀藏は洗礼を受けた後、ヴィリオン師の布教に多大な貢献をした。無学文盲であったが宣教熱心で、その熱意に多くの人々が感銘したという。一方の古林正信は13歳の受洗とはいえ頭脳明晰でフランス語を完全に習得し、要理や祈りを熱心に学んだ。

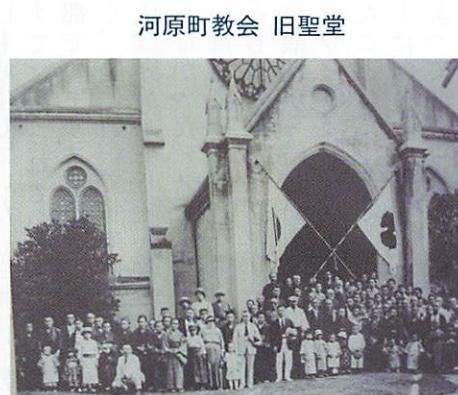
京都教会の礎石ともいえる中野好太郎もまた、ヴィリオン師との関わりの深さゆえ特筆すべき人物である。伝道士として、要理や祈りを熱心に学んだ。中野の死後、フランスから寄せられた聖堂建設のための莫大な献金をもとにヴィリオン師は土地を探し、旧対馬藩の屋敷2千坪の土地を購入した。こうして現在の河原町教会は、1890年に聖フランシスコ・ザベリオ天主堂として完成、献堂された。しかしこの直後、山口への転任の命令が出された。京都への愛着を断ち切りながらの移動であった。その後、山口教会では殉教者の調査や、次の萩教会ではキリストンの史跡の調査など精力的に活動したが、萩がイエズス会に移譲されたのを機に神戸に引き上げた。しかし教会司牧への望みを表明して再び奈良教会へ赴任。そこで体調を崩し、望みどおり川口教会（大阪司教区の前の司教座聖堂）で一度も故郷へ帰国することなく90歳で帰天した。生涯の大半、64年を日本の宣教につくした人生であった。

（福音宣教企画室）

て働くなか結核で倒れ、彼が帰天した際のヴィリオン師の苦悩は、彼との関わりの深さを示すものであろう。

その他、元士族、伊勢の神官、元旗本、琵琶法師、さらには仏僧や軍人など、ありとあらゆる階層、職業の人々がヴィリオン師から洗礼を受けた。

## フランスからの寄付と河原町教会建設へ



河原町教会 旧聖堂



献堂式

介  
紹  
設  
施

## 聖母の家

社会福祉法人



社会福祉法人聖母の家は、三重県北部に位置する中心都市で、三重県下最大の人口である四日市市にあります。1960年代から1970年代にかけて、工場の排煙による大気汚染により、四日市ぜんそくの発祥地として悪名を轟かせていましたが、現在では法整備や汚染防止技術向上などの対策が進み、中京工業地帯周辺の、大気状態も格段に良くなりました。また、近鉄名古屋線などが通ることから名古屋市への通勤・通学者があり、ベッドタウン化している団地も多く

存在します。その中でも、日系ブラジル人が多く居住する笛川団地が市内南部にあり、その団地に隣接する形で聖母の家があります。1967年4月に精神薄弱児施設（現・障害児入所施設）として開設しましたが、当時は笛川団地もなく周りを自然に囲まれたところでした。しかし、47年が経過した現在では、笛川団地だけではなく住宅地に囲まれた地域の中にも存在する施設となりました。

聖母の家の創設者は、カトリック四日市教会の主任司祭ヨゼフ・ムーニー神父です。神父は、子どもが知的障害と診断され、将来のことを悲観した信者から「この子を安心して預け、育ててもらえるところをつくってください」という願いを聞き、カトリック教会の関係者から資金を集めながら、アメリカのカトリック教会からも支援を得て創立されたものでした。大変な苦労もあり、その歳月も5年ぐらい費やされたと聞いておりま

す。創設後は、1997年頃までシスターが生活支援員として従事して、カトリックの行事もたくさん行われていました。現在、障害者総合支援法の下では、「障



害者支援施設（のぞみ寮定員80名）、「共生生活援助事業（グループホームらいふ定員47名）」、「地域生活支援センター（日中一時支援事業）」、「障害者相談支援事業（陽だまり）」を、また児童福祉法の下では、「障害児入所施設（あゆみ寮定員55名）」、「放課後等デイサービス」を実施しています。

私たち、創設者であるヨゼフ・ムーニー神父の障害のある人への熱い思いを引き継ぎ、同じ人間としての「目」と、優しくつなぐ温かい「手」とと共に生きようと願う「心」を念頭に、地域福祉に役立つ施設づくりを目指し、障害のある方一人ひとりの尊厳を大切にしていきます。

シリーズ  
小教区

## 魅力ある教会って?? (北白川教会)

### 開かれた教会をめざしてー



カトリック北白川教会は京都市左京区の比叡山の麓にある教会です。近くに琵琶湖疏水が流れる大変美しい場所にあります。毎週日曜日のミサではイタリアの小さな町の人々から寄贈された澄んだ鐘の音が響きます。当教会は1951年に聖ヴィアトール修道会によって創立、当時の信者は修道院内の小さな聖堂でミサや勉強会を開き、熱心に祈りをささげていました。

1994年に現在の聖堂が献堂され、今年で20周年を迎えます。献堂にあたっては、ボアベール神父をはじめ多くの方々の尽力と地域の方々の支えにより、バリアフリーを目指した聖堂とすることができました。今年は、記念の催しや文集の作成などが企画されています。これを機会に信者のより深いつながりを築くことができるでしょう。

本教会は、大学が近くにあることから多くの学者・研究者、また留学生が集います。ミサでは日本人だけでなくアジア、アフリカ、ヨーロッパ諸国の信者が祈りをささげています。毎日曜日のミサ後にはコーヒーやお菓子を囲んで親睦会が開かれ、国際色豊かな交流が行われています。司祭、ブラザーも気さくに宗教や歴史などのお話を聞かせてください、多くの信徒にとって貴重な時間となります。

また信者であるか否かにかかわらず多くの婚約者が、結婚講座を受け、結婚式をあげています。結婚式担当のメンバーがお手伝いしながら式の準備をし、結婚式当日を迎えます。司祭は結婚された方にも手紙を欠かさず、つながりを大切にされています。本教会は子供たちも多く、日曜学校のリーダーの話に一所懸命に耳を傾け、勉強の後は修道院の広い庭で元気な走り回っています。

昨年度にリニューアルした北白川教会

公式ホームページでは、教会での行事などについて写真を交えて紹介したり、信者でない方にも分かりやすく教会でのお祈りの仕方などについて紹介しています。

また、教皇のページをはじめ多くのリンクを設けることで、インターネットで教皇や多くの信者とつながる環境を作りました。

また、1年に3回発行する広報誌「Viator」では、信者の率直な意見に触ることができます。私たちがめざすのは「開かれた教会」、すなわち、多くの人が集い、祈ることができる場所の実現です。ホームページ等を通じて私たちの教会を知つただければ幸いです。(http://www.stviator-kcc.org/)

カトリック北白川教会



初聖体

となる東北支援活動は、毎月約15名のスタッフを中心

に、ケーキやスープのセッ

トメニューをはじめ、衣料、

雑貨、東北物産の販売をしております。

支援活動も毎月(基本第4日曜日)行って、被災地の方とのつながりを深めています。

## 11月のお知らせ

## 教 区

聖書委員会／Tel.075(211)3484 ㊀㊁

## 聖書講座

「神に生かされて」—聖書にみる貧しさ—

日 時：5日㊀ 19:00 6日㊁ 10:30

テーマ：神の民の貧しさ

講 師：中川 博道師(カルメル会)

日 時：19日㊀ 19:00 20日㊁ 10:30

テーマ：貧しい人は幸い

講 師：溝部 倭司教(高松教区)

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

## よく分かる聖書の学び

日 時：12日㊀ 10:30

講 師：北村 善朗師

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

参加費：300円

## ブロック

## 奈良ブロック協議会

## 聖書講座

「キリスト者の信仰を支える旧約のことば」

日時会場：7日㊁ 19:00 大和郡山教会

8日㊂ 10:00 奈良教会

テー マ：新約聖書への関わり

講 師：鈴木 信一師(聖パウロ会)

## ユスト高山右近列聖列福を願う集い

日 時：15日㊂ 14:00

会 場：やまと郡山城ホール

## ウォーカソン

24日㊁ 奈良教会 集合 9:00

ミサ 9:30 出発10:30

奈良公園内6.5km歩行

寄付先：プレダ基金・ハイチ共和国の子  
供たち・カンボジアの子供たち  
への教育支援活動

## 修 道 会

## 男子カルメル修道会(宇治修道院)

Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457

## キリスト教靈的同伴(松田 浩一師)

日 時：7日㊁ 20:00～8日㊂ 15:00

参加費：6,500円

## 水曜黙想(中川 博道師)

日 時：12日㊀ 10:00～16:00

テー マ：人生の秋

参加費：3,000円(昼食代他)

## 青年黙想(松田 浩一師)

日 時：15日㊂ 16:00～16日㊁ 17:00

参加費：一般6,000円 学生4,000円

対 象：青年男女30歳まで

## 聖書深読(九里 彰師)

日 時：29日㊁ 10:00～16:00

参加費：2,500円

## 聖ドミニコ女子修道会(京都修道院)

Tel.075(231)2017 Fax.(222)2573

## みことばを聴こう！

日 時：15日㊁ 14:00～16:30

テーマ：神の友であること

エックハルトを中心として

指 導：松田 美佳氏(花園大学非常勤講師)

対 象：青年男女／会 費：300円

## ロザリオと共に祈る会

日 時：21日㊁ 10:30～12:00

## 諸 団 体

## 京都カトリック混声合唱団

練 習：9日㊁ 14:00／22日㊁ 18:00 ミサ奉仕後

30日㊁ 14:00 カトリック会館6階

## コーラ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：13日㊁ 10:00

カトリック会館6階

27日㊁ 10:00 河原町教会 ヴィリオンホール

## 聴覚障がい者の会

## 手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：18日㊁ 13:00

会 場：カトリック会館6階

## 心のともしび 番組案内

テレビ(衛星.CATV)スカイAスポーツプラス

毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「イエスとともにだち」

29日このシリーズ最終話

出演は森田 直樹師(仙台教区へ派遣)

ラジオ(KBS京都) ④～⑤ 朝 5:45

④ 朝 5:15

11月のテーマ「キリスト教との出会い」

## 京都カナの会

日 時：12月 7日㊁ 13:30 例会

会 場：カトリック会館6階

ヌヴェール愛徳修道会  
修道院閉鎖のお知らせ

深草修道院 京都市伏見区深草東伊達町39番地

2014年9月30日をもって閉鎖

## 京都教区サポートセンター

東日本大震災「大船渡支援」献金報告

9月分 580,659円／累計 44,927,629円

「大船渡支援」献金 郵便振替口座

口座番号「01000-2-0024724」

加入者名「カトリック京都司教区本部事務局」

摘要欄に「大船渡支援」とご記入ください。

## ボランティア募集中

詳細は京都教区ホームページをクリック

京都教区

検索

※ 2015年1月号の原稿締切り日は11月26日㊁です。

## 大塚司教の

11月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



2日(日) 14:00 衣笠墓苑 物故者追悼ミサ  
(衣笠教会)

4日(火) 10:30 広報委員会  
14:00 青少年委員会

6日(木) 10:00 中央協 常任司教委員会  
15:00 ノ 社会司教委員会

8日(土) 11:00 小教区評議会役員交流会

9日(日) 10:00 田辺教会 創立60周年記念  
感謝ミサ

11日(火)-13日(木) 第20回 日韓司教交流会  
(韓国)

## 第4回京都教区 青年の集い

伊勢教会 濱口 聰子

毎年、京都教区の各地区を回り、年に一度  
その地区の青年たちが集い、開催されている  
“KYD”。今回は、6月29日に三重地区・伊  
賀市農村ふれあいセンターで行われました。

テゼ、高山右近についての学習、分かち合  
い、各活動団体によるインフォメーション等  
を行い交流した後、心を一つにし、ミサを捧  
げました。参加者はそれぞれに国籍が異なり、  
話す言葉は違いましたが、体を動かし、笑い、

15日(土) 14:00 ユスト高山右近列聖列福を  
願う集い(やまと郡山城ホール)

16日(日) 10:00 高輪教会ミサ・右近講演

19日(水) 10:00 福音宣教企画室 会議

20日(木) 14:00 司教顧問会  
17:00 教区司祭追悼ミサ(河原町)

21日(金) 11:00 中央協列聖推進委員会 会議

25日(火) 13:30 京都済州姉妹教区交流委員会

27日(木) 10:30 司祭全体集会(河原町)  
15:30 司祭評議会

28日(金) 右近400年記念実行委員会  
(大阪大司教館)

楽しみ、祈ることを共有できたこの時間は、  
とても良いものとなりました。

次回も、青年たちが交流し、信仰を深めて  
いくことができるよう、たくさんの青年のご  
参加を心待ちしております。

